

須賀川市議会議員

渡辺こうへい

活動報告

第1号



創政会 平成28年1月
発行責任者 渡辺康平
須賀川市新町165-1
TEL 080-3145-4519

震災復興から 地方創生へ、 時代の変化に 適応するために

昨年の9月・11月議会では、「人口減少」「少子高齢化」、そして「地域経済の縮小」を乗り越えるための取り組みについて、質問と提言をいたしました。

また、元航空自衛官としての経験をもとに、防災・減災についての具体的な提言を実施しました。

一般質問における

質問と提言(概要)

9月議会

Q 人口減少社会における本市の将来目標人口を伺う。

A 2060年の推計人口は55000人、目標は6万人。

Q 交流人口を増やすための具体的なU・Iターン推進策は。

A 具体的な施策として①求人情報や市内企業概要などの市HP掲載②市分譲住宅地PR③新規就農者への支援を行っている。

Q 福島空港の防災拠点化について、現状と市の取り組みを伺う

A 福島県が庁内に担当課を設けて検討を進めている。市も関係機関と連携を深めて働きかけていく。

Q 本市と郡山駐屯地との災害時の連携を結ぶべきではないか。

A 災害時には本市地域防災計画に基づき対応するため、協定締結については検討していない。

11月議会

Q 若者や子育て世代を対象とした、市長と市民の対話事業を開くべきではないか。

A まちづくりの主役は市民であり、対話を最も大切にしている。対話を事業化し範囲を限定することなく、臨機応変に対応する。

Q 新規産業創出事業で開発された技術を、県内外に広報するための取り組みを伺う。

A 本市工業認定品制度やHP開発支援、関係機関と連携を強めながら販売促進に取り組んでいきたい。

Q 都市公園における音楽イベントなどの興行利用を、もっと広



報すべきではないか。

A 各種イベントの活用ができることをHPや広報で周知を図る。

Q 都市公園内に高品質テナント設置して、公共資産の新しい活用を検討すべし。

A 先進地事例を参考にしながら調査を進めていく。

Q 市民から公園内のトイレの新設や改善の声がある

A トイレの新設については、公園利用状況等を見極めながら整備を検討したい。

Q 本市地域防災計画に図上防災訓練を導入すべきではないか。

A 現在構築中である総合防災情報システムを活用した、図上防災訓練の実施を検討していく。

議会活動から見えてきた須賀川市の「未来」

昨年の10月に須賀川市は「須賀川市人口ビジョン」「須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。(以下、人口ビジョン、本市総合戦略と記述)

人口ビジョンは本市の「人口の現状分析」と「将来展望」及び目指すべき将来の方向性を示すものです。本市総合戦略は須賀川の「強み」や「特徴」を最大限に生かしながら、今後5年間の「好循環」を具体化していくための戦略ビジョンとして策定されました。

須賀川市の「強み」とは何か？

総合戦略の基本となる柱の一つに「産業力を強化するまちづくり」があります。本市の強みを最大限に生かした地域産業構造の強化のために、本市総合戦略には以下の内容が書かれています。

「本市は、福島県の高速交通体系の重要な結節点となっており、多くの優良企業が立地しています。今後、さらなる産業の振興の

ため、企業誘致の推進や既存企業の育成支援に努めます。」

この「高速交通体系」とは東北自動車道と福島空港等を示しています。確かに須賀川ICの利便性は高く、多くの企業が立地しています。しかし、隣接する郡山市と白河市には高速道路のICが二か所あり、新幹線の停車駅があります。つまり、郡山市と白河市は、本市以上に高速交通体系の結節点です。

福島空港の活用策を考える

高速交通体系の結節点として、同じ強みを持つ3市が競えば、新幹線の停車駅が所在する郡山と白



福島空港をどのように活用していくのか

河内市が優位になるのは間違いないでしょう。

須賀川が「郡山と白河との競争に負けない」ためには、本市に所在する「福島空港の活用策」を考える必要があります。

福島空港の活用策、その一つに国産初のジェット旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)があります。

復興の翼として MRJが持つ可能性

昨年11月に初フライトを成功させたMRJは、これまでの航空機に比べて、座席数が少なく、燃費やメンテナンスにおける20%のコストダウンを実現しています。MRJはその経済性から、「都市の拠点空港と地方空港を結ぶ路線」や「海外と地方を結ぶ路線」に期待が持たれています。

つまり、福島空港で以前就航していた「福岡便」や「那覇便」の復活、もしくは海外路線の新設という可能性があると考えられます。

現在はMRJの納入時期は未定となっておりますが、いずれ来る地方空港の新時代に乗り遅れるわけにはいきません。

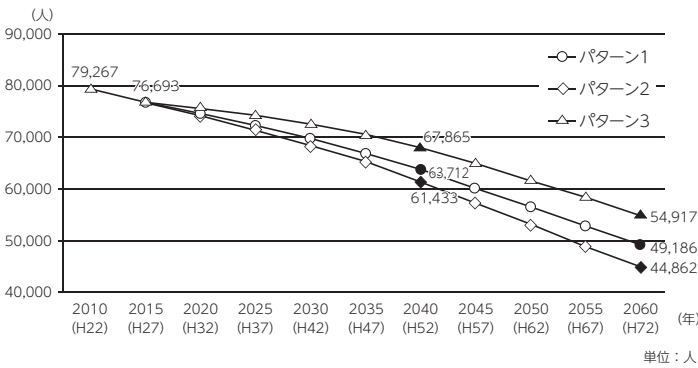
「MRJを復興の翼」として、福島空港における就航の実現に向けて取り組んで参ります。

人口ビジョン：目指すべき将来の方向性

2040年(H52)で人口7万人、2060年(H72)で人口6万人の維持を目指す

急速に少子高齢化が進む状況の中で、須賀川市においても長期的には人口が減少していくことは避けられません。将来人口は希望的な人口増ではなく、ゆるやかな人口減少を前提とした、現実的な目標値になっています。

●須賀川市の将来人口推計結果(総人口)



年	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (H32)	2025 (H37)	2030 (H42)	2035 (H47)	2040 (H52)	2045 (H57)	2050 (H62)	2055 (H67)	2060 (H72)
パターン1	79,267	76,693	74,711	72,370	69,793	66,949	63,712	60,106	56,402	52,743	49,186
パターン2	79,267	76,693	74,275	71,529	68,521	65,201	61,433	57,269	53,035	48,888	44,862
パターン3【基準推計】	79,267	76,693	75,660	74,214	72,448	70,369	67,865	64,868	61,615	58,272	54,917